

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
第26回学協会長会議議事録

開催日時 : 2022年5月30日(月) 12:30 - 13:30

開催場所 : オンライン開催

出席者 :

[学協会]

林田 佐智子(議長 一般社団法人 日本リモートセンシング学会 前会長)

内田 貴之(一般社団法人日本宇宙生物科学会 庶務幹事), 長田 昌彦(一般社団法人 日本応用地質学会 代表理事), 前田 眞治(一般社団法人日本温泉科学会 会長), 神田 穰太(日本海洋学会 会長), 西村 太志(特定非営利活動法人日本火山学会 会長), 山口 喜博(形の科学会 会長), 宮内 崇裕(日本活断層学会 会長), 佐藤 薫(公益社団法人 日本気象学会 理事長), 宮脇 律郎(一般社団法人 日本鉱物科学会 会長), 阿部 なつ江(一般社団法人 日本鉱物科学会 理事), 遠藤 一佳(日本古生物学会 会長), 島田 沢彦(日本沙漠学会 総務担当理事), 小室 光世(資源地質学会 会長), 小原 一成(公益社団法人日本地震学会 会長), 目黒 公郎(日本自然災害学会 会長), 坂本 正徳(日本情報地質学会 副会長), 山崎 剛(一般社団法人水文・水資源学会 副会長), 藪田 ひかる(生命の起原および進化学会 会長), 岩田 尊夫(石油技術協会 会長), 西村 浩一(公益社団法人 日本雪氷学会 会長), 田部井 隆雄(日本測地学会 会長), 金谷 有剛(日本大気化学会 会長), 長門 研吉(日本大気電気学会 会長), 池原 研(日本堆積学会 会長), 鈴木 毅彦(日本第四紀学会 会長), 久田 健一郎(日本地学教育学会 会長), 杉田 文(公益社団法人日本地下水学会 副会長), 南 雅代(一般社団法人 日本地球化学会 会長), 山本 正伸(地球環境史学会 会長), 塩川 和夫(地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) 副会長), 小口 高(一般社団法人日本地形学連合 副会長), 磯崎 行雄(一般社団法人日本地質学会 会長), 熊木 洋太(日本地図学会 会長), 海江田 秀志(日本地熱学会 会長), 友澤 和夫(地理科学学会 会長), 小口 高(公益社団法人日本地理学会 理事長), 池 俊介(日本地理教育学会 会長), 巖 網林(一般社団法人地理情報システム学会 会長), 齊藤 靖二(公益社団法人東京地学協会 会長), 関根 良平(東北地理学会 幹事長), 取出 伸夫(土壌物理学学会 会長), 小暮 敏博(一般社団法人日本粘土学会 会長), 平野 高司(日本農業気象学会 会長), 渡辺 俊樹(公益社団法人物理探査学会 会長), 奈良岡 浩(一般社団法人 日本有機地球化学会 会長), 鈴木 啓助(陸水物理学学会 会長), 若林 裕之(一般社団法人 日本リモートセンシング学会 会長), 中村 昭子(日本惑星科学会 会長),

[日本学術会議] 田近 英一(日本学術会議地球惑星科学委員会前委員長), 春山 成子(幹事), 西 弘嗣(委員),

[日本地球惑星科学連合] 田近 英一(会長), 川幡 穂高(前会長), ウォリス サイモン(副会長),

小口 千明(副会長), 高橋 幸弘(副会長), 河宮 未知生(理事), 阿部 なつ江(理事), 奥村 晃史(理事), 中村 昭子(理事), 西 弘嗣(理事), 末廣 潔(事務局長)  
(敬称略)

議事に先立ち、出席者の確認と自己紹介を行った。

#### 1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。訂正の提案などは特に挙げられなかった。

#### 2. 日本地球惑星科学連合活動報告

田近会長から、日本地球惑星科学連合の活動報告があった。

##### (1)大会報告

現在開催中の2022年連合大会について報告があった。金曜日までの幕張メッセ現地大会では参加登録者の約半数となる3000人超の来場者を迎えた。運営上大きな問題はなかった。

現在はオンラインポスター期間である。

##### (2)第9期役員候補者の紹介

次期役員(理事・監事)候補者の紹介があった。本日の提示社員総会で審議される。理事については20名中6名が女性となり、ジェンダーバランスが改善される。また、セクションのバランスは会員数を反映する比率になっている。

(3)3月7日、ウクライナ侵攻問題に関する声明を発出した旨報告があった。

##### (4)第8期活動概要

- ・第8期(2020年から2022年)の活動概要の報告があった。
- ・2021年大会はオンライン開催、2022年大会はハイブリッド開催と、先取的な取り組みを行い、おおむね好評であった。
- ・各種会議がオンラインに移行されるにあたり、緊密な情報共有及び意見交換を行うことで、執行体制を強化した。
- ・ダイバーシティ、とくに女性比率の向上を、30%(最低20%)の数値目標を設定することで、代議員、委員会等のジェンダーバランスの改善を行った。
- ・ジャーナルPEPSの質の向上を目指し、Impact Factor 3.6を獲得した。
- ・JpGU30周年(2021年)記念にあたり、功労者への感謝状を贈呈した。
- ・学術会議会員任命拒否問題、「はやぶさ2」の成功など、社会状況等に対して随時声明を発出した。

##### (4)PEPS発行状況について

川幡理事(前会長)よりProgress in Earth and Planetary Scienceについて、依頼があった。

前回の学協会長会議でお願いしたように、レビュー記事の執筆の依頼を予定しているので、依頼があった場合はぜひ協力をお願いしたい。招待論文となり投稿料は無料となる。査読は通常通り

行う。

### 3. 日本学術会議の近況報告

日本学術会議地球惑星科学委員会田近委員長より、活動報告があった。

・第5期(2020年10月～2023年9月9日)のマスタープランについて

日本学術会議では、25期には従来のような「マスタープラン」を策定せず、新たに「未来の学術振興構想(仮称)」を策定することとなった。10年ほどの計画に加え、20～30年のビジョンが求められる。また各計画のビジョンに加え、それらを束ねたビジョンも作成される。

・大型研究計画について

マスタープランとは別に、コミュニティとして大型研究計画を作成する。連合大会期間中に U-08 セッションを開催してヒアリングを行った。

・学術会議会員候補者選考について

11月から推薦を受け付ける。プロセスの透明化が図られる予定である。

・「持続的発展のための国際基礎科学年」(2022～2023)について

学術会議では、今年の7月から1年間「持続的発展のための国際基礎科学年」と位置づけている。各団体におかれましては後援協賛される場合は窓口より申請を行ってほしい。

・内閣府からの審議依頼について

内閣府より、「研究力強化—特に大学等における研究環境改善の視点から—に関する審議について」、「研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議について(依頼)」2件の審議依頼があった。

### 4. 次期学協会長会議議長の選任

次期学協会長会議議長の選任を行った。林田現議長より一般社団法人地理情報システム学会の厳網林(げんもうりん)会長の推薦があり、本人の了承を得た。議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

### 5. その他

林田議長より、2022年大会の運営について和田浩二大会運営委員長の努力に謝意を表し大会委員長として感謝状を贈る旨報告があった。

以上。